

研究協力をお願い

昭和大学病院、昭和大学横浜市北部病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

Dual energy CT^{*1}を使用した深部静脈血栓^{*2}の水分含有量の定量化の検討

※1：2種類のエネルギーで撮影する特殊なCT撮影 ※2：下肢静脈にできた血栓

1. 研究の対象および研究対象期間

2016年1月～2021年7月に昭和大学病院および昭和大学横浜市北部病院で深部静脈血栓症のため造影CT検査を受けられた方

2. 研究目的・方法

深部静脈血栓症（deep vein thrombosis：以下DVT）の塞栓範囲、発症時期、血栓の性質、高度循環障害、肺塞栓症（pulmonary thromboembolism：以下PE）の有無を評価し、治療方法を選択することが推奨されている。DVTの画像診断には、超音波や造影CTが用いられるが、非侵襲的に血栓の範囲、性質を評価できる超音波が第一選択とされている。近年、CT装置の多列化、高性能化および、同時にPEを評価できる点から造影CT検査の需要が高まっているが、CT検査における血管内腔の血栓評価においては造影剤の投与が必須となっている。しかし喘息や以前にアレルギー既往のある患者に対する造影剤の使用は副作用のリスクが高く、大きな懸念材料となっている。近年、Dual Energy CT（以下：DECT）を応用することによって様々な画像解析が可能となり、物質の成分を弁別することが可能になった。この解析方法により、血栓の水分含有量を測定し定量化できると考えられ、それを画像化できる可能性が示唆された。現在CTによる物質の水分含有率に関する報告はされていない。そこで本研究では、three-material decomposition法にてDVTと正常血管の水分含有率を評価し、それらを定量化することで有意な差があるか検討し、それらを画像化可能か検討する。

研究期間

昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「結果通知書の承認日」より、実施医療機関の長の研究実施許可を得てから、2023年7月30日まで

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：Dual energy CTの画像データ、下肢静脈エコー画像データ、年齢、性別、身長、体重、血液データ、DVTの治療法、現病歴

4. 外部への試料・情報の提供

データセンターへのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。

対応表は、当病院の研究責任者が保管・管理します。

5. 研究組織

昭和大学病院 加藤京一

昭和大学横浜市北部病院 高橋俊行 中井雄一

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学横浜市北部病院

氏名：中井雄一

住所：224-8503 神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1 電話番号：045-949-7835

研究責任者：中井雄一

研究代表者：中井雄一